

(別添2)

| | |
|-------|---------|
| No. | 1 |
| 策定年月 | 令和4年10月 |
| 見直し年月 | |

麦・大豆産地生産性向上計画 中津市産地 (作成主体:中津市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

中津市は、全耕地面積(令和3年:2,864ha)に対して主食用米の作付割合が52%(令和3年:1,515ha)を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米の生産拡大や園芸品目の導入等と併せて、麦や大豆の生産を拡大する必要がある。

麦の生産拡大にあたっては、担い手への集積を進めるとともに、排水対策や防除等の適期作業の励行やスマート農業技術の導入により、効率的な作業を可能とする生産性の高い麦の産地づくりを推進していく。また、実需と密接に連携し、「はるみずき」や「ハルアカネ」など需要に応じた品種への転換等を進めながら、単収や品質の高位安定を実現する。

大豆の生産拡大にあたっては、団地化の取組やドローンによる農薬散布等の作業の効率化を図り、種子更新、適期播種、排水対策などの基本的な栽培技術を徹底し、実需者からの要望の高い「フクユタカ」の単収向上・高品質化を図る。

現在、中津市においては、中津市農業振興方針を掲げ、水田収益力強化ビジョンにより水田活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦について、小麦は県内の醤油業者向け用途の「はるみずき」と製粉用の「チクゴイズミ」を作付けしている。裸麦は県内の味噌用途等に使用される「トヨノカゼ」を作付けしている。生産量の確保や品質の向上などの実需者ニーズに対応するため、高タンパク小麦品種である「ミナミノカオリ」は令和4年度に新品種「はるみずき」へ全面転換し、普及定着を図る。裸麦「トヨノカゼ」については、令和5年度の「ハルアカネ」への全面転換に向け、普及定着を図る必要がある。

大豆については、豆腐、煮豆等に使用される「フクユタカ」を作付けしているが、降雨による播種時期の遅れや難防除雑草の多発等により、生産量や品質が不安定になり、実需者に対し安定的な供給が出来ていない。排水対策や雑草防除など基本技術の励行と適期播種に努めることで、収量・品質の高位安定化を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

麦については、近年、作付面積は増加傾向にあるものの、収量の圃場間差及び年次間差が課題となっており、徹底した排水対策、適期に作業を行えるように経営規模に応じた機械の計画的な導入が課題となっている。

大豆については、近年単収が低迷しており、作付面積は若干の減少傾向にある。要因としては、排水不良や長雨等による作業の遅れ、地力低下等が考えられ、排水対策の徹底が課題である。また、品質向上のため、難防除雑草対策も課題である。

麦、大豆ともに担い手への農地の集積が進み規模拡大が進む中、収量や品質の向上を図るため、圃場の団地化及びスマート農業技術の導入による作業の効率化に取組み、播種や防除など適期作業を徹底していく必要がある。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|---------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|---------|---------|-----------|
| | | 令和2年産 | 令和3年産 | 令和4年産(現状) | 令和2年産 | 令和3年産 | 令和4年産(現状) | 令和2年産 | 令和3年産 | 令和4年産(現状) |
| 小麦 | ミナミノカオリ | 293.5 | 307.3 | 0.0 | 350.1 | 450.8 | 0.0 | 1,027.6 | 1,385.6 | 0.0 |
| | はるみずき | 5.1 | 14.7 | 425.4 | 37.2 | 138.0 | 424.5 | 1.9 | 20.3 | 1,806.2 |
| | チクゴイズミ | 273.8 | 293.4 | 242.2 | 265.3 | 309.8 | 322.9 | 726.5 | 909.2 | 782.3 |
| 裸麦 | トヨノカゼ | 133.0 | 133.2 | 111.4 | 292.6 | 369.5 | 363.9 | 389.2 | 492.2 | 405.4 |
| | ハルアカネ | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 487.5 | 0.0 | 0.0 | 3.9 |
| 作物計 | | 705.4 | 748.6 | 779.8 | 304.1 | 375.0 | 384.4 | 2,145.2 | 2,807.3 | 2,997.8 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 98.0 | 119.6 | 119.0 | 57.5 | 99.7 | 86.4 | 56.4 | 119.3 | 102.9 |
| | すずおとめ | 35.9 | 9.1 | 7.6 | 104.7 | 82.4 | 138.1 | 37.6 | 7.5 | 10.5 |
| 作物計 | | 133.9 | 128.7 | 126.6 | 70.2 | 98.5 | 89.6 | 94.0 | 126.8 | 113.4 |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 令和2年産 | | 令和3年産 | | 令和4年産(現状) | | 備考 |
|-----|-----|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 麦類 | 麦全体 | | | | | 657.3 | 81.4% | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 657.3 | 84.3% | |

| 作物名 | 品種名 | 令和元年産 | | 令和2年産 | | 令和3年産(現状) | | 備考 |
|-----|------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | 大豆全体 | | | | | 13.7 | 10.8% | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 13.7 | 10.8% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄が良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載が良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載が良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

本市においては、作業効率等を考慮し、団地は概ね2ha以上の、同一作物が作付けられており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地を基本とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。